

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動

～地域力の向上を目指して～

和光市教育委員会

1 研究のねらい

本市のコミュニティ・スクールの取組は、平成29年4月より小学校2校を先行指定し、平成30年度より全12校に指定している。現状は、地域や教員のコミュニティ・スクールづくりへの理解不足や、市のフォローアップの不十分さから学校任せになっている面もあり、必ずしも機能的な組織基盤を整備した活動になっていない。

この現状を鑑み、コミュニティ・スクールのスタートから4年が経過した今、学校と地域が連携・協働した活動を推進していくために、本テーマのもと研究に取り組むものである。

2 活動の概要

(1) 基盤となる体制づくり

- ・ 地域学校協働活動推進員を各校の学校運営協議員から1名選出し、学校運営協議会の充実を図る。
- ・ 産業支援課、市民活動推進課、危機管理室など市長部局関連課との連携を図る。

(2) 社会教育の充実

- ・ 地域学校協働活動推進員が社会教育法に位置付けられていることから、広く社会教育推進の視点に立ち、各校においても地域の社会教育の充実を意識した活動を進める。
- ・ 社会教育委員会議に「和光市における学校・家庭・地域の連携・協働を支える社会教育の役割について」を諮問し、豊かな地域教育の創造を推進していくための組織づくり、継続的な仕組みづくりを推進する。

(3) 主な活動

- ・ 登下校の見守り
- ・ 防犯教室
- ・ 防犯マップの作成
- ・ 環境整備
- ・ 通学路点検
- ・ 読み聞かせ
- ・ あいさつ運動
- ・ 花いっぱい運動
- ・ 花火大会

地域学校協働活動を充実させるための体制づくり



3 関係団体

- ・ 学校応援団
- ・ 自治会
- ・ P T A
- ・ N P O 法人
- ・ 心の教育推進委員会
- ・ 民生児童委員
- ・ おやじの会
- ・ 地区社会福祉協議会

4 研究内容

(1) コミュニティ・スクール推進協議会

各校のコミュニティ・スクールディレクター、小中学校校長会代表、教頭会代表による協議等の場を設けた。

<主な内容>

- ・ コミュニティ・スクールディレクターの役割についての研修
- ・ 国や県の研修会等で得た情報の共有
- ・ 各校の活動状況の報告や課題についての協議
- ・ 中学校区に分かれての話し合い

(2) 拡大学校運営協議会

学校運営協議員に加え、保護者、地域に広く呼びかけ協議会を行った。教職員も参加し、学校、地域の現状と課題について話し合った。グループごとに付箋を用いて自由に話し合ったり、テーマを決めて話し合ったりと、学校によって工夫が見られた。

<主な内容>

- ・ 子供たちの見守りについて
- ・ 地域の資源の活用について
- ・ 地域の大人が子供たちの育成に関わる方策について
- ・ コロナ禍での活動について
- ・ 特色ある事業について
- ・ 子供たちの遊びや生活の変化について



コミュニティ・スクール推進協議会
(中学校区に分かれての話し合い)



拡大学校運営協議会

5 研究の成果

(1) コミュニティ・スクール推進協議会

- ・ 各校の取組を自校の活動に生かすことができた。
- ・ コロナ禍における活動の工夫について協議することができた。
- ・ コミュニティ・スクールディレクター同士のつながりができた。

(2) 拡大学校運営協議会

- ・ 学校、地域の現状と課題について教職員と保護者、地域で共有することができた。また、4、5人のグループで話し合ったことで熟議につながる貴重な機会となった。
- ・ 他校のコミュニティ・スクールディレクターも参加したことで、違った視点で意見を述べたり、他校の取組を自校に持ち帰り広めたりするなど地域学校協働活動の推進につながった。

6 課題と今後の展望

(1) 課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、どのように活動していくか。
- ・ 継続的な活動とするために人材の確保をどのように行っていくか。

(2) 今後の展望

地域学校協働活動推進本部を設置し、社会に開かれた教育課程の充実、コミュニティ・スクールの活性化、多様な主体の参加、緩やかなネットワークづくり等、社会教育を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりにつなげていく。

小学校の統廃合における「地域課題」の解決と地域学校協働活動 ～弱体化する地域の教育力を向上させるネットワーク構築とは何か～

川島町教育委員会

1 研究のねらい

地域の教育力は、高度経済成長期（1955～1972）以降の地域住民相互の関係性の希薄化により、地域内の共助の機能が衰退することにより、現在に至るまで低下傾向にある。このような背景から、1970年代後半より議論され続けているが、ことに1990年代中盤に「生きる力」の育成において必要不可欠であると中教審答申（1996）で示されたことにより、国全体の文教政策の中に明確に位置づけられるに至った。

地域学校協働活動を提起している中教審答申（2015）では、地域とともにある学校づくりのために、地域の教育力を組織的・継続的に活用できるように本活動と学校運営協議会とが両輪になり、地域が学校を支援するという従来の目的にとどまらず、地域の教育力をも向上させるという双方向的な極めて斬新な視点が加えられた。この背景には、子供を育てていくために必要不可欠な地域の教育力の低下に歯止めがかからないという危機感があるのだろう。

川島町においても、地域内の共助の機能は低下傾向にあったが、ことに2018年の小学校の統廃合により、学校支援ボランティアの活動停止、子供が地域行事に参加しなくなるなどの影響が僅か数年の間で顕在化しつつある。

本研究では、地域の教育力全体を底上げしていくために、「学校を含む地域内の多層で多層的なネットワーク」の構築プロセスを提示したうえで、現場実践者をどのように支援したらよいかを検討する。

2 活動の概要

- (1) 地域学校協働本部会議
活動方針の決定、地域課題の協議、活動のPR、協力者を募る機会として実施
- (2) 土曜日の旧小学校校舎・体育館の開放
毎週土曜日に旧出丸・旧小見野小学校の校舎や体育館が利用できる取組
- (3) 各種講座、イベントの実施
地域学校協働活動推進員やコーディネーターと事務局が協力して開催



3 関係団体

- ・つばさ北小学校
- ・つばさ南小学校
- ・川島中学校
- ・三保谷、出丸、八ツ保、小見野公民館
- ・民生児童委員
- ・つばさ北小PTA
- ・つばさ南小PTA
- ・地域子ども教室
- ・武蔵丘短期大学
- ・子ども会
- ・青少年相談員等

4 研究内容

- (1) 地域学校協働推進員・コーディネーターで構成される運営組織を理論的に類型化した
ソーシャル・キャピタル論に依拠し、旧出丸小学校の運営組織は、同世代・全員女性・バレーボールサークル仲間、PTA仲間構成されるので「**結束型**」、旧小見野小学校の運営組織は、多様な世代の男女で若干面識がある方々で構成されるので「**橋渡し型**」に分類して、それぞれの特性を考慮して、運営の支援を行うことにした。ただし、最初から分類ができることに気づいていたわけではなく、それぞれの組織とかがかわる中で徐々に気づいたものである。
- (2) ソーシャル・キャピタル論の2つの類型の特性を加味して運営支援を行った
「**結束型**」は、**同質な者どうしの結びつきが強い集団で、お互いにしっかりと助けあうという特性**がある。結束型に分類される旧出丸小学校の運営組織は、お互いに助け合うことで最初から運営が円滑であった。その反面で、実施する講座内容が固定化したり、小さな子供を持つ若い親世代のニーズが十分には捉えることができなかった。そこで、社会教育主事は、若い世代の保護者のコーディネーターとして加入するように推進員に促したが、元々まとまりがよいグループただけに実現しなかった。その後、推進員が主任児童委員となり他地区の異なる世代の方と知り合うことで、3名の30歳代の若い母親をコーディネータに加えることができた。そのことにより、元々安定した運営をベースに、若い保護者の視点が変わり、「手形をとろう」や「凧揚げ」など多様な講座が現在企画されている。また、地元の皮細工職人がアクセサリー作りを協力したり、旧小学校をプラットフォームに関係性が広がりつつある。
「**橋渡し型**」は、**異質なもの同士の緩やかな関係で新しいアイデアや情報を得ることが得意であるという特性**がある。橋渡し型に分類される旧小見野小学校の運営組織は、最初の頃、お互いに面識はあっても親しいわけではなく、チームワークが機能せずに学校開放などの運営がままならなかった。そこで、社会教育主事は、意思疎通がスムーズになるように月1回の定例会議を開催した。このことは、副次的な効果として、コーディネーターの取組んでみたい講座やイベントのアイデアを社会教育主事が把握する機会にもなった。本年度は、コーディネーターの発案で「ほんとに怖い怪談話」イベントを実施したり、それぞれが得意としているジャンルで講座を実施するなど多様な活動が実現している。
- (3) 推進員やコーディネーターのスキルアップを実践を通じて図った
上記の取組を運営組織と社会教育主事が協働してすすめてきたが、徐々に運営組織が主体的に企画し、運営ができるようになってきた。この人材は社会教育分野だけではなく、学校教育への支援でも力を発揮すると期待されている。



推進員・コーディネーター



ファミリーコンサート



ハロウィンイベント

5 研究の成果

- (1) 理論に基づく運営組織の支援
理論に基づくアプローチを行うことで、「勘」や「経験」のみに依拠することなく、実践者同士が共通の視点で事例を分析することが可能になる。そのことにより、他者の実践をより深く理解することができる。また、推進員の考え方やコーディネーター集団の関係性をみることで、適切な支援方策を導き出し、予測しながら対応することができる。

6 課題と今後の展望

- (1) 課題
理論に基づく実践・支援は、看護分野などと比較して、社会教育の分野では、ほぼ研究されてこなかった。そのため、研究の蓄積が不十分である。
- (2) 今後の展望
実践者だけではなく、研究者に協力をいただき理論に基づく実践・支援の取組が深化していくことが望ましい。

学校と学校運営協議会、用土地区子どもを守る会、学校応援団等との連携を通して 地域学校協働活動の一体的推進

寄居町教育委員会・寄居町立用土小学校

1 研究のねらい

用土小学校では、学校運営協議会、学校応援団、用土地区子どもを守る会が組織的に活動を行っている。学校応援団の活動は、コーディネーターを中心に、①安全・見守り②学習支援③環境整備に分かれ、幅広い地域住民の参画を得て運営が行われている。また、大きな組織として用土地区子どもを守る会があり、地域に住む児童生徒の安全を見守る組織が、平成16年に発足した。その中に、用土区長会、用土公民館、用土地区民生児童委員、地域防犯推進委員、用土長寿会、PTA、学校運営協議会等の組織がある。子供たちの学びや成長を支えるため地域が一体となり、個別の活動からネットワークを形成させ、地域学校協働活動をさらに活性化させていく必要がある。そのため、学校運営協議会を核として、目標を共有し、学校と地域が連携・協働した活動を推進していくために、本テーマのもと研究に取り組むこととした。

2 活動の概要

(1) 学校運営協議会との連携

学校運営協議会は、10人で組織されており、年5回程度開催している。地域とともにある学校づくりについて話し合いを行っている。学校運営協議会が、子供・保護者・地域をつなぐ役割を果たしている。

(2) 経営方針における位置付け

グランドデザインに地域と連携・協働した活動の推進を位置付け、目指す学校像や地域連携の項目を設定している。

(3) 主な活動内容

①学校応援団

・登下校の見守り、読み聞かせ、昔の遊び体験、栽培活動、枝の剪定や除草、子ども俳句、地域学習引率等

②用土地区子どもを守る会

・年3回の準備会と全体会の実施、各区にのぼり旗設置、通学路点検、除草作業、危険箇所改善要望等

地域学校協働活動



3 関係団体

- ・学校運営協議会
- ・子どもを守る会
- ・学校応援団
- ・用土区長会
- ・用土公民館
- ・民生児童委員
- ・用土地区長寿会
- ・地域防犯推進委員
- ・寄居中学校区PTA
- ・用土駐在所連絡協議会
- ・各地区衛生委員、道路委員

4 研究内容

(1) 学校応援団の活動～安全・見守りや学習支援～

登下校の見守り活動に登録してくださっている方は、約70名いる。登録された方には、黄色い帽子に黄色いベストまたはジャンパーを配付している。これらを身に着け、横断旗をもって交差点等に立ち、子供たちの登校の様子を見守ってくださっている。下校の際には、朝とは違う方が、近くの交差点まで迎えに来てくれている地区も多い。子供たちは、見守り隊の方と一目でわかるので安心感がある。また、学習支援として、朝の読み聞かせや、生活科の町探検の付き添い、昔の遊びによる高齢者との交流、花や野菜の栽培等も行っている。



〔登下校の見守り〕

(2) 「用土地区子どもを守る会」の活動～様々な活動を通して子供たちの安全を守る～

用土地区で不審者情報が多発したことから、子供たちの安全を守るため、平成16年2月、区長会や地区の町議会議員等が中心になり発足され、現在約100名の方々から組織されている。活動内容は、年3回の準備会と全体会を行い、全体会では、各区で話し合いをしたり、現状報告をしたりして、共通理解を図っている。それから、PTAを中心に通学路の安全点検を行い、除草作業を行ったり、危険箇所の改善を町に要望したりしている。また、のぼり旗を作成し、区長を中心に地区ごとにのぼり旗を設置し、用土地区全体で防犯意識の向上を図っている。



〔用土地区子どもを守る会〕

(3) 用土っ子プロジェクト～地域でのあいさつやお礼運動～

児童が、地域の方々に日々守られていることを実感し、感謝の気持ちを言動で表せるようにするために、「用土っ子プロジェクト」という名称の取組を行った。目的は、率先して地域の方々にさわやかなあいさつや笑顔を届けること、あいさつを通して、自ら地域や学校をよりよくしていこうとする態度を育てることである。学年ごとに実施日を決めて、全校児童が取り組んだ。内容は、見守り隊の方に自己紹介をして、お礼を伝え、その様子をあいさつノートに記入し、次学年へと引き継がせていった。また、通学班の班長全員が、お昼の放送の時間に、感想発表を行った。児童の感想からは、「緊張したけれど、感謝の気持ちが伝えられてよかった。」「これからもあいさつを続けていきたい。」「見守り隊の方が、とても喜んでくれて、ありがとうと言われた。」「涙を流して聞いてくださった方がいた。」という感想が書かれていた。地域の方々が、毎日自分たちを守ってくださっているということを実感できたようである。見守り隊の方々からも、学校に感謝の言葉が多く寄せられた。



〔用土っ子プロジェクト〕

5 研究の成果

- (1) 子供にとっては、地域住民と顔見知りになり、感謝の気持ちをもつことができた。ふれあいや体験により、豊かな心が育ち、コミュニケーション能力が高まり、安全面での効果も実感している。
- (2) 学校にとっては、地域住民や保護者の支援により、児童の安心安全が守られているため、授業に力を注ぐことができた。
- (3) 保護者にとっては、地域住民との人間関係が構築でき、地域に子供が守られているという安心感がもてるようになった。
- (4) 地域にとっては、子供と地域住民がつながり、学校支援活動をする地域住民の生きがいや生活のほりあいへとつながっている。

6 課題と今後の展望

- (1) 課題
地域の人材確保と今後の継続性、そして、子供たちが感謝の気持ちを地域貢献という活動へとつなげていく必要がある。
- (2) 今後の展望
地域との連携や協働をさらに進めながら、保護者に活動と人材のPRをして、様々な場面で教育活動に参加していただく。そのためには、学校を核にした地域づくりの実現を目指すために、地域と学校が連携協働し、地域とともにある学校づくりを推進していきたい。

学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進 ～学校運営協議会を核としたネットワークの形成～

杉戸町教育委員会・杉戸町立泉小学校

1 研究のねらい

本校では令和2年4月から学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとしての活動をはじめている。近年は、少子化に伴う学校規模の縮小や、これに伴う児童を取り巻く環境の希薄化などが課題となっている。

上記の課題を解決するために、学校運営協議会を核として、学校応援団等の地域学校協働活動を束ね、互いに情報共有や活動連携を図りながら、効果的な教育活動へと結びつけていくことを目指し活動に取り組んでいる。

2 活動の概要

- (1) 学校運営協議会において、学校の未来像の共有を行う。
学校運営協議会各回において「どのような児童を育てていきたいか。」また、学校への「地域の願い」はどのようなものがあるか。「目指す児童像」などを委員全員で共有し、本協議会を進めていくことを確認する。
- (2) コーディネーターを配置し、連絡体制を整える。
それぞれの学校応援団に、全体を見渡し、連絡調整のできるコーディネーターを配置するとともに、学校運営協議会との連絡や調整についても担当し、協議会の熟議の結果を具現化できるよう、連絡体制を整える。
- (3) 主な活動内容
 - ①環境整備応援団…除草活動、樹木の剪定伐採、植栽活動
 - ②安心・安全見守り応援団…登下校の見守り、交通安全啓発活動
 - ③学習サポート応援団…学習支援
 - ④古代住居保存会応援団…古代祭りを通じた地域の歴史学習



3 関係団体

- ・学校運営協議会
- ・学校応援団
- ・泉小学校PTA
- ・古代住居保存会
- ・おやじの会
- ・泉保育園
- ・杉戸町防犯推進委員
- ・泉地区代表区長
- ・泉児童館
- ・杉戸警察泉駐在所

4 研究内容

(1) 児童の願いを実現する活動

児童が抱く願いや思いを実現するために、地域が支え・応援する体制づくりを行う。

①多様な地域人財への呼びかけ

学校の教育活動をホームページで積極的に公開し、学校の様々な取組を紹介する。また、学校応援団の募集についても、学校だよりやホームページで呼びかけ、児童の願いを実現するための協力を、地域人財へ積極的に呼びかけを行っている。

②学校運営協議会での熟議を通して

学校運営協議会の中では「児童・学校の願い」とともに、「地域の願い」についても積極的に委員へ聞き取っている。すると、両者の願いが重なることが多くあり、それらについて熟議を通してより深め、学校応援団の具体的な活動へとつなげている。

今後、学校運営協議会の中で児童による提案等ができる機会を設け、児童の願いを各委員へ直接届けることができる場面を設定していく。



〔応援団による見守り活動〕

(2) 地域の特色や伝統を生かした協働活動

泉小学校地区に受け継がれる歴史や伝統を学習に生かした取組を行う。

①古代住居保存会との活動

泉小学校にある古代住居を保存する「古代住居保存会」との活動を通して、また、「生まれ育った泉地区に誇りをもってほしい。」との地域の願いを受け、それらを計画的に教育活動に取り入れることで、特色のある教育活動の創出につながるとともに、泉小地区に残る遺跡への興味関心を高め、郷土愛をもつことへとつながる。

②地域ぐるみの緑化整備活動推進

泉小学校は周りを田畑に囲まれた緑豊かな学校である。それ故、緑化の適正な維持が課題であった。「子供たちにとって安心・安全な、地域・学校であってほしい。」との願いを生かすことへとつなげるためにも、「参加できる人が、参加できるときに」を合言葉として、緑化整備活動の持続可能な活動へとつなげている。



〔古代祭りの際の火起こし体験〕



〔応援団のサポートによる田植え〕

5 研究の成果

- (1) 学校運営協議会が機能することで、各学校応援団の活動が円滑かつ迅速に行えるようになった。
- (2) 学校応援団の活動を学校運営協議会が認知することで、互いの活動の見える化や相互の活動援助を行えるようになってきた。
- (3) 児童が学習活動の中で「地域」を意識することで、地域社会と学校のつながりや、地域への参画意識を高めることにつながった。

6 課題と今後の展望

(1) 課題

適切な人財配置、新たな人財発掘、地域の願いを生かす教育活動の計画的な位置づけ

(2) 今後の展望

今後も学校や学校運営協議会を核としながら、学校応援団や学校を支える地域人財が相互に作用する「地域とともにある学校」づくりを推進する。